

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 21 日現在

機関番号：32421

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370868

研究課題名(和文) 英領ジャマイカの4砂糖農園における黒人奴隷人口の比較研究

研究課題名(英文) A comparable study of the slave populations among the 4 sugar estates in British Jamaica

研究代表者

伊藤 栄晃 (ITO, Hideaki)

埼玉学園大学・人間学部・教授

研究者番号：60213071

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀第一四半期の英領ジャマイカ4砂糖農園における奴隷の出生と死亡の季節的変動を検討した。結果として死亡数は、4農園に共通して共通して、概ねピークが6～9月でボトムが1～3月というパターンを示すことが分かった。死亡については、年初の労働集中よりも寧ろ気象的条件の厳しさの方が大きく作用した。もちろん死亡数の水準は農園ごとに異なり、これは農園の奴隷管理のあり方の相違が作用していよう。対して出生の方は有意な季節変動パターンは見出し難い。気象条件が厳しい時期や労働集中期に出生が低下する農園がある一方、出生数が年を通してほとんど変動しない例やピークがそれら出生には不適な時期に来る例も見い出された。

研究成果の概要(英文)：It is the aim of this research to identify the seasonal changes in the births and deaths of the slave in the 4 sugar plantations in Jamaica in the first third of the nineteenth-century, the last era of the British slavery. The number of slave deaths was at its peak in summers and reached bottom from winter to spring: the pattern suggests that the seasonal pattern of slave deaths seems more associated with conditions of nutrition and weather than those of labour regimes. However, the seasonal patterns of the slave births fluctuation were various among the estates, which suggests the behavior of the estate managers toward slave coupling and their births was quite different in the estates.

研究分野：近代英国史

キーワード：砂糖プランテーション 西インド諸島 ジャマイカ アフリカ人奴隷 人口変動

1. 研究開始当初の背景

(1) 1960年代に欧米で確立した歴史人口学とそれを土台とした家族社会史研究は、今やわが国にもすっかり定着しユーラシア大陸各地域の比較研究も可能になりつつある。他方欧米で近年とくに日進月歩の勢いで進展している分野の一つである西インドのプランテーションの奴隷の家族・人口研究は、わが国の西洋史研究では非常に取り組みが遅れている領域であり、まずは世界の最新の成果をわが国の研究世界に紹介し、そのうえで以下「背景」そしてに示す、欧米の研究シーンにおける固有の方法上の問題が提示され新たな調査研究が組織されなければならない。

(2) 農園奴隷の人口学的再生産や家族生活は農園を単位に営まれるにもかかわらず、多くの研究は、史料制約もあって、それを植民地ごと、地域ごとのマクロの問題としてアプローチしている。これまで蓄積されてきた個別農園を対象とした微視的プランテーション経営研究では、農園ごとに労働の在り方など奴隷の待遇に著しい違いがあることが明らかにされている。しかしながら両方向の研究成果の間の連携はいまだ十分ではなく、互いにあまり関わりなく併存しているのが現状である。

(3) 欧米での人口・家族研究は、家族を社会の基層として、つまり自立した家計と人口学的再生産との基本単位としてみる見方から出発している。それゆえに研究は、多かれ少なかれ「自然」な家族形成について法則的理解を得ることを志向している。しかしながら自立した人格を認められず家畜同様所有者の動産と見做されていた奴隷の家計と人口学的再生産とは、欧米社会の自由な賃金労働者や自営農民家族のそれらとは異なり、企業的経営の内部に組み込まれている。その意味で奴隷の家族形成と人口動態とを研究する際には、西ヨーロッパ型の家族世帯へのアプローチとは異なる別の方法の開発が必要となるが、この課題は未だ手掛けられていない。

(4) 18世紀末以降西インドの奴隷社会は、奴隷価格の高騰などにより急速に「クレオール」化、すなわち西インド生まれの奴隷第二世代が人口構成比で優勢になってゆくと、それは奴隷社会の階層化、つまり「奴隷エリート」の形成と分業化とを伴いながら、独自の文化を有し白人少数支配たるプラントクラシと対峙する「アフロ・カリビアン社会」の成長を促し、それはこの時期以降各地で発生する奴隷の大規模反乱の温床となつたとされている。この動きは今のところ専らプラントクラシの危機という文脈において捉えられているが、「アフロ・カリビアン」社会の形成がプラントクラシに敵対的要素

を含むものならば、奴隷の家族形成・人口行動へのプランターのビヘイビアはアンビバレントなものにならざるを得なくなると予想される。しかしながら現状ではこのような問題提起は欧米では為されていない。

2. 研究の目的

(1) この30年ほどの間に欧米で革命的ともいえる進展を見せたカリブ海沿岸の奴隷の人口・家族研究の成果は、わが国ではほとんどフォローされておらず、この分野は研究・教育の両面において、欧米よりひどく遅れていると言わざるを得ない。この現状に鑑み、まずはそれらを広くわが国の西洋史研究の世界に紹介し、研究者の共通理解を得る。

(2) 英領西インドを題材として取り上げ、その砂糖プランテーションにおける農園ごとの奴隷の人口動態、その出生行動、そして待遇の違いを、その出生、疾病、死亡、そして給食・医療などの諸条件を指標として明らかにする。

(3) 農園の管理側が奴隷の人口行動に対しどのようなビヘイビアを取っていたかを明らかにする。とくにそこにおけるプランターのアンビバレンスの解明に注力する。それを通して「アフロ・カリビアン」社会とプラントクラシとの緊張関係を、家族社会研究の方向から明らかにする。

(4) 奴隷の人口行動がどのような文化的目標をもって実践されていたかを解明する。西ヨーロッパの自営農民や賃金労働者家族のそれは、自立した家計の維持存続を目標として営まれたが、西インドの農園奴隷にはそのような目標はく奪されていたのだから、個人的な肉体的欲望の発散は別にして、家計の維持に代わるような文化的ないしは社会的目標が何かあったのか明らかにする。

(5) 上記「目的」との作業を通して、18世紀から19世紀初頭の西インドの奴隷の家族形成が、一方でプランテーション経営に組み込まれているが、他方でそれにもかかわらずプランターに対して敵対的な論理をもって為されているという、二重の意味で近世西ヨーロッパの家族のそれとは質的に異なる、固有の性格を有することを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 18世紀末に英領ジャマイカで最大の砂糖プランテーション主だったジョン・ソープが島内に所有していた6砂糖農園について、日々の奴隷の出生と死亡とが記された「奴隷目録 (Slave Inventory)」の調査を行う。この「目録」は英ケンブリッジ市にある同州立公文書館に所蔵される「ソープ家文書」に含まれるが、現存する「目録」は1795年から翌1796年までの一年分に限られる。この文

書では多くの死亡についてその死因が記されており、食事や傷病、医療など奴隷の待遇の実際を農園間で比較することができる。また彼らの出生の季節的な変動も比較できる。

(2) 18世紀英領西インドの砂糖生産をリードしていた先進的なジャマイカのプランテーション群との比較のため、「古い砂糖植民地」の一部を成す小アンティル諸島の小島ネイヴィス島のモントラヴァーズ砂糖農園(Mountravers Estate)についての史料調査を実施する。この農園は19世紀初頭まで英国プリストル市の商人家族ピニー家の所有であり、一連の文書は「ピニー家文書(Pinney Family Papers)」として英プリストル大学附属図書館特殊文庫所蔵となっている。それらのうち検討するのは、1783年から1801年まで現存する「勘定簿(Pinney Account Books)」と1798年から1801年までの期間について現存する「農園業務日録(Plantation Occurrences)」とである。ソープ家の「奴隷目録」や下記の「奴隷登録簿」とは異なり、「勘定簿」はセンサス型の記名史料だが、死亡についてはほとんど記載がない。また「日録」は農園の各業務に配置された人数のみが示され、名前は記されていない。

(3) 欧米では英領西インドのマクロ人口分析の基本史料としてすでに大いに利用されている「奴隷登録簿(Slave Register)」をもって、個別農園の奴隷の人口行動の分析を実施し、新しい史料の利用を開拓する。この文書は、1807年の奴隷貿易廃止後英植民地当局が、違法な奴隷輸入の監視のため奴隷の所有者に対して3年ごとに作成を命じたセンサス型の奴隷の記名リストで、1833年の奴隷制自体の廃止をもって終了する。ジャマイカについては、多くの農園で1817年から1832年までの5回分が残されている。但し実際センサスの形を採るのは第1回目の調査記録だけで、第2回目以降は先立つ3年間の増減分だけの記載になる。原本は英国立公文書館に所蔵されており、その全頁の画像が、同公文書館のホームページを通してインターネット上に公開されている。そこでは氏名・性別・年齢・生まれ(アフリカ人かクレオールか/混血か否か)などが記される。今回はジャマイカの4農園(Old Montpelier, Golden Grove, Mesopotamia, Worthy Park)それぞれについてデータ作成と分析を実施する。

4. 研究成果

(1) この分野に関する欧米の最新の研究成果のわが国研究界への紹介は、下記雑誌論文ならびに学会発表にて実施した。また西インドの歴史・言語・地理・文学などの情報交換と情報発信とを趣旨として、わが国初の研究会の組織を準備している。この来るべき「研究会」を拠点に国際的なネットワーク構築を目指して、米アイオワ州立大学のケリー

博士 DR. Kelly Wenig の助言・助力を得ておる。また教育では、研究代表者が勤務する埼玉学園大学人間学部人間文化学科の講座「西洋史資料講読」(2016年度下半期)においてパイロット的にプランテーション史料の批判的検討を実施。その経験を踏まえ、西インド奴隷制についての汎用性のある授業プログラムと教材の開発とを進めている。

(2) まず上記「研究の方法」の実践により対象の6農園間では、死亡数の水準は農園ごとに異なるもののその季節変動パターンは概ね共通しており3~5月に底を打ち6~8月にピークとなる。これは死亡の季節変動は、農園間の奴隷の居住・給食・医療などの待遇条件の違いではなく、年間の農園労働のリズムや気象条件による肉体的負担の多寡を主に反映することが分かった。これに対して出生の方は、共通する季節的変動パターンは見出すことはできなかった。2農園では出生のピークが繁忙期を時期的に避けているが、他の農園では、繁忙期にピークが重なる場合(2事例)や、有意味な変動パターン自体が見いだされなかった農園(2事例)もあった。同様の結果は、上記「研究の方法」の実施においても見出すことができた。このことより、奴隷の死亡については既説の言う如く農園業務や気象条件の季節的変化が大きな影響を及ぼしていることが確認できた。他方奴隷の出生については、多くの農園が共有する季節的パターンは見いだされ得ない。それは、とりあえず各農園における奴隷のカップリングや彼らの出生・子育てに対する農園管理側のビヘイビアの違いが大きく影響するためと予想できる。

(3) 上記「成果」の奴隷の出生と農園管理の在り方との関係をさらに追及するべく、「研究の方法」の「ピニー家文書」に含まれる文書の検討を実施した。「勘定簿」の検討の結果、モントラヴァーズ農園の奴隷は互いに異なる業務と家族集団とからなる3グループより構成されていたことが分かった。第1グループは先代農園主ジョン・フレデリック時代から当農園に在籍していた奴隷ならびにその子孫たち、第2グループは次代ジョンが新規に購入した奴隷並びにその子孫たち、そして第3グループはジョンの後継者ジョン・フレデリックにモントラヴァーズ農園が譲与された際、ジョンが特に手元に留め置いたため第2グループより抽出された者とその子孫である。第1グループは主に農園の砂糖キビ栽培や砂糖製造に直接かかわる業務に、また第2・3グループは主に様々な手工業その他農園生活のための補助的な業務に従事させられていた。農園においてこのように奴隷集団を分割していた事例は、上記「研究の方法」においては見られなかっただけでなく、これまでの英領西インドの砂糖プランテーション研究でも指摘され

ていない発見事実である。モントラヴァーズ農園で奴隷社会をプランターが分割した理由として考えられるのは、独自の文化を持ちプラントクラシへの抵抗の拠点となる「アフロ・カリビアン」社会の成長を抑制することである。当農園ではジョンが第2グループのとくに青少年に手工業その他のスキルの習得を組織的に行わせ、彼らを農園外部に派遣して収入増に努めていた。様々な情報・知識を得た彼らと農園での農工業活動に精通した第1集団との接触を妨げることは、農園のガバナンス上必要な政策と考えられていたと想像される。

さらに「勘定簿」から出生の季節的变化を検討すると、確かに5月～8月を底とし9月～12月に増加し2月にピークに達する変動パターンが看取されるが、貧家の割合は予想外に小さいことが分かった。また「農園業務日録」から、「ギャング」に組織される人数の多寡を通して年間の業務繁忙期を抽出すると、9月から11月にかけての時期と特定できた。逆に業務が比較的緩い時期は3・4月と5・6月であることが分かった。10か月と10日程度の妊娠期間を考慮して、出生をもたらしたカップリングの時期と業務の閑・忙とのタイミングを比較してみると、確かに2月の出生ピークが前年3月上旬の閑暇期のカップリングを反映することは見て取れるものの、その前後に出生が集中してはいない。他方最も繁忙な9～11月のカップリングが出生に反映される8月～10月には、出生数はボトムから緩やかな上昇を示す。閑暇期に出生がそれほど集中しない理由としては、やはり当農園における奴隷集団の3分割によるカップリング機会の少なさを考える必要がある。他方最も繁忙な時期にカップリング数がそれほど低下しなかった理由としては、ある程度以上のギャングへの大量動員日には、グループを超えたギャングへの組織がなされ、それが奴隷男女にカップリングのための追加的機会を与えたことが考えられる。

以上の考察は、西インドの末期プラントクラシにおける奴隷の出生について、重要な問題を提起する。すなわちそれを社会的には、一方では農園管理側の「アフロ・カリビアン」社会の成長を抑制しようとする政策、他方で奴隷の側の可能な限りカップリング機会を利用しての「アフロ・カリビアン」社会を存続させ成長させようとする意志、この両者のせめぎ合いの結果としてみる新しい見方を提起するものである。奴隷の「家族形成」が健全な子育てへの見通しもないまま母親のかくも多大な肉体的犠牲を伴うデスペレートな形を採らざるを得なかったとすれば、それは西ヨーロッパの自立した家計形成を前提とした「自由な」家族形成と決定的に異なる点である。奴隷の出生を彼らとプラントクラシとの闘争の一面と見る見方は、西インド諸島の奴隷社会における人口行動の特質を考えるうえで、見逃すことのできない新

しい論点を提供できるものとする。この仮説の応用可能性を探るため、さらに他の農園事例の検討が進められなければならない。

< 参考文献 >

Higman, B. W., *Slave Populations of the British Caribbean 1807-1834* (Kingston, 1984).

Pares, Richard, *A West India Fortune* (London, 1950).

Craton, Michael, *Testing the Chains: Resistance to Slavery in the British West Indies* (New York, 1982).

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

伊藤栄晃「盛期ジャマイカ砂糖農園における奴隷の出生と死亡 『グッドホープのジョン』所有の6農園の事例」(社会経済史学会編『社会経済史学』、査読有、第80巻第1号、2014、73-89.)

〔学会発表〕(計 2 件)

Hideaki Ito, 'Slave Births and Field Works in Plantation Nevis', (2016年6月24日、2016 annual Meeting, Agricultural History Society, SESSION Panel D: "Plantation Experiences in the American South and the Caribbean", New York City College)

伊藤栄晃「英領西インドにおける奴隷の家族形成と砂糖プランテーション 18世紀末のネイヴィス島モントラヴァーズ農園の事例研究」, 2017年5月27日、社会経済史学会第86回全国大会自由論題報告(西洋史、於 慶応義塾大学三田キャンパス)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 栄晃 (ITO, Hideaki)
埼玉学園大学・人間学部人間文化学科・教授
研究者番号：60213071

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()